

安全データシート

整理番号：HIJ-NaClean2C

作成：2008/09/29

改訂：2024/07/01

製品名：クリーニング液

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：クリーニング液
供給者の会社名称：コニカミノルタ株式会社
住所：〒100-7015 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
担当部門：プロフェッショナルプリント事業本部 産業印刷事業部 テキスタイル事業推進部
(TEL:042-660-7648, FAX:042-660-9825)
緊急連絡電話番号：公益財団法人 日本中毒情報センター
(事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)
中毒110番 一般市民専用電話
(大阪) 072-727-2499(情報料無料) 365日 24時間対応
(つくば) 029-852-9999(情報料無料) 365日 24時間対応
推奨用途：布染色用途
使用上の制限：推奨用途以外の使用を禁止する

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類 区分
引火性液体 区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経口) 区分に該当しない(区分外)
皮膚腐食性/刺激性 区分に該当しない(区分外)

GHSラベル要素

絵表示：---
注意喚起語：---
危険有害性情報：---
注意書き：---

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分及び濃度又は濃度範囲

成分名称	含有量 wt. %	CAS RN®	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
水	>99	7732-18-5	対象外	対象外	非該当	非該当	非該当
消泡剤	<1	---	既存	既存	非該当	非該当	非該当

安全データシート

整理番号：HIJ-NaClean2C

作成：2008/09/29

改訂：2024/07/01

製品名：クリーニング液

4. 応急措置

吸入した場合：	速やかに空気の新鮮な場所に移る。異常を感じた場合は医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合：	水および石鹼でよく洗う。
眼に入った場合：	直ちに15分以上、流水でよく洗う。異常を感じた場合は医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合：	直ちに水で口をすすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませる。医師の指示があった場合のみ吐かせる。速やかに医師の診察を受ける。意識のない場合は口から何も与えてはならないし、無理に吐かせようとしてはならない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：	製品自身は不燃性。周囲の物質に応じて選択する。
使ってはならない消火剤：	情報なし。
特有の消火方法：	消火の際は自給式呼吸器具及び完全保護具を着用する。周辺火災の消火に務め、危険でなければ容器を安全な場所に移す。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	保護具を着用する（8章参照）。
環境に対する注意事項：	情報なし。
封じ込め及び 浄化の方法及び機材：	砂又は他の不燃性吸収剤で吸収し、空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	皮膚、粘膜、着衣に触れたり、眼に入らないようにする。適切な保護具を着用する（8章参照）。取り扱い後に手などをよく洗う。
局所排気・全体換気：	取り扱いは十分な換気の下で行う。
安全取扱注意事項：	情報なし。
接触回避：	混触危険物質（10章参照）より遠ざける。
衛生対策：	皮膚、粘膜、着衣に触れたり、眼に入らないようにする。適切な保護具を着用する（8章参照）。取り扱い後に手などをよく洗う。

安全データシート

整理番号：HIJ-NaClean2C

作成：2008/09/29

改訂：2024/07/01

製品名： クリーニング液

保管

安全な保管条件： 容器は密閉し、避けるべき材料(10章参照)より遠ざけて乾燥した冷暗所に貯蔵する。

安全な容器包装材料： 情報なし。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策等： 取扱いは密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

許容濃度等

成分名称	厚生労働省(安衛法)		日本産業衛生学会	ACGIH	
	管理濃度	濃度基準値	許容濃度	TLV-TWA	TLV-STEL
消泡剤	未設定	未設定	未設定	未設定	未設定

保護具

呼吸用保護具： 通常の条件下では必要なし。臭気が気になる場合は、防塵マスク（粉塵、ミスト用）を着用する。

手の保護具： 不浸透性保護手袋

眼、顔面の保護具： ゴーグルまたは安全メガネ

皮膚及び身体の保護具： 通常の条件下では必要なし。

9. 物理的及び化学的性質

製品

外観 物理的状态： 液体

形状： 液体

色： 無色透明

臭い： 無臭

臭いのしきい（閾）値： データなし

融点／凝固点： データなし

沸点又は初留点 及び沸点範囲： 約100(℃)

可燃性： データなし

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界： データなし

引火点： 無し

自然発火点： データなし

分解温度： データなし

pH： 9.0－11.0

粘度： データなし

安全データシート

整理番号：HIJ-NaClean2C

作成：2008/09/29

改訂：2024/07/01

製品名：クリーニング液

動粘度率：	データなし
溶解度：	水：易溶
n-オクタノール／水 分配係数(log値)：	データなし
蒸気圧：	約17(mmHg) (20℃)
密度及び／又は相対密度：	データなし
相対ガス密度：	約0.6(空気=1)
蒸発速度：	約1.0(水=1)
粒子特性：	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性：	通常の取扱い及び保管条件では反応しない。
化学的安定性：	通常の手扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性：	情報なし
避けるべき条件：	情報なし
混触危険物質：	特になし
危険有害な分解生成物：	特になし

11. 有害性情報

製品

急性毒性（経口）：	区分に該当しない（区分外） LD50: > 2000 mg/kg[ラット]
急性毒性（経皮）：	データ不足のため 分類できない
急性毒性（吸入）：	データ不足のため 分類できない（気体） 分類できない（蒸気） 分類できない（粉塵・ミスト）
皮膚腐食性／刺激性：	成分のデータより分類 区分に該当しない（区分外）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	データ不足のため 分類できない
呼吸器感作性：	データ不足のため 分類できない
皮膚感作性：	データ不足のため 分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない AMES試験:陰性
発がん性：	データ不足のため 分類できない

安全データシート

整理番号： HIJ-NaClean2C

作成： 2008/09/29

改訂： 2024/07/01

製品名： クリーニング液

成分
消泡剤

生殖毒性：	データ不足のため 分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：	データ不足のため 分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)：	データ不足のため 分類できない
誤えん有害性：	データ不足のため 分類できない

急性毒性（経口）：	区分に該当しない（区分外） LD50: > 2000 mg/kg[ラット]
皮膚腐食性／刺激性：	区分に該当しない（区分外） None
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分2B Mild
生殖細胞変異原性：	分類できない AMES試験:陰性

12. 環境影響情報

製品

生態毒性	
急性毒性：	分類できない データ不足のため
慢性毒性：	分類できない データ不足のため
残留性・分解性：	製品データなし
生体蓄積性：	製品データなし
土壌中の移動性：	製品データなし
オゾン層有害性：	データ不足のため 分類できない

13. 廃棄上の注意

廃棄方法： 法律に従い廃棄すること。

水質汚濁防止法（生活環境項目）及び下水道法（下水の排除の制限）に該当するので河川、下水等にそのまま排出しない。

産業廃棄物であるため、産業廃棄物処理業の許可を受けた業者に処理を委託する。（特別管理産業廃棄物には該当しない）

安全データシート

整理番号：HIJ-NaClean2C

作成：2008/09/29

改訂：2024/07/01

製品名： クリーニング液

14. 輸送上の注意

国連分類 国連分類： 非該当
国連番号： 非該当
品名（国連輸送名）： 非該当
容器等級： 非該当
国内規制がある場合の規制情報： 危険物船舶運送及び貯蔵規則の危険物に該当しない。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策： “7章 取扱い及び保管上の注意” の記載による。

15. 適用法令

消防法： 非該当
毒劇法： 非該当
安衛法： 非該当
化審法： 一般化学物質から構成されている
PRTR法（化管法）： 非該当
水質汚濁防止法： 有害物質を含有していない

16. その他の情報

参考文献等： 化審法の既存化学物質 安全性点検データ集（化学品検査協会）
国際化学物質安全性カード 日本語版（化学工業日報社）
環境化学物質要覧（環境庁環境化学物質研究会）
新版危険・有害性便覧（中央労働災害防止協会）
RTECS (U.S. DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICE)

改訂に関する情報を含むその他の情報 本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の含有量が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。
本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質は今後施行予定のものを含む場合があります。

免責文： 記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。危険有害性の評価は、今後の新しい知見で改訂されることもあります。また、記載事項は当製品についての通常の取扱いを対象にしており、特別な取扱いや組み合わせの場合は用途・用法に適した安全配慮の上お取扱い願います。